

『渋沢栄一のチャレンジ精神！』

今年も全国都市教育長協議会の総会と研究発表会に参加してきました。今年には埼玉県川越市で行われました。最終日の午後に行われた教育視察では、渋沢栄一の生家（中ん家）を訪ね、その一生について学びました。渋沢翁は日本資本主義の父と言われ、銀行を拠点として500以上の事業にあたりました。日本銀行、みずほ銀行（以前の第一勧業銀行）をはじめ、東京電力・東邦ガス・アサヒビールやサッポロビールの起業にタッチしました。深谷市血洗島にある生家には、チャレンジ精神に富んだ彼の生涯がわかる展示がなされていました。有名な『論語と算盤』の「右手に算盤、左手に論語」「公益を大切にせよ」「論語と算盤は甚だ遠くして甚だ近いものだ」「道徳経済合一説」「焦らない 悔やまない 心配しない」「四十五十ははなたれ小僧、六十七十働き盛り、九十になって迎えが来たら百まで待てと追い返せ」などの言葉を改めて知ることができました。

川越は「都会田舎（とかいなか）」の街です。駅周辺は東京都心と変わりませんが、街道から少し離れると鄙びた旧市街が広がっています。街道沿いの新旧の商店街、小江戸の街並み、時の鐘、芋のお菓子など観光資源でいっぱいでした。総会と研究発表大会では、学校運営協議会の現状と課題、熟議、学校の適正規模と学校統合、中学校部活動の地域展開について協議がなされました。当日、私は部会の司会を務め、勤続五年の表彰を頂きました。中々思うように進まない中学校部活動の地域展開や、学校統合の課題について熱い議論が続きました。少子化が愛知県よりも他の地域では、はるかに大きな問題となっていることがよく分かりました。

四月、五月の土曜日・日曜日に各小学校区のコミュニティー協議会の総会に出席させていただきました。教育委員会としては、小・中学校に立ち上がっているコミュニティースクールを応援していただいていることもあり、地域とのさらなる連携を進めたいとお礼とお願いに伺いました。学校からのニーズと各校区のコミュニティーのニーズをうまく組み合わせ、ギブアンドテイクで協働連携を進めてほしいと思っています。21日に行われたCS代表者との連絡協議会では、中学校部活動の地域展開についてご意見を伺う機会となりました。地域展開を進める上で、CSに助けていただきたいと言う教育委員会の思いも聞いて頂きました。

甘夏や商家が続き時の鐘

令和7年6月1日

津島市教育委員会
教育長 浅井厚視